

北海道における新生児長期慢性疾患入院患者について

稲 川 昭

(日鋼記念病院 小児科)

“NICU”について長期間、人工呼吸管理等の入院管理を余儀なくされた新生児が各地の“NICU”運営上の大きな問題となっていることが推測された。現在、どのような問題を各地でかかえているかを調べるため、広域での実態調査をおこなうこととした。調査対象者は昭和61年1月1日から昭和61年12月31日に出生した患者で、生後1週間以内に入院となり、生後90日以上継続して入院加療を要した者とした。調査対象施設は、昭和60年の新生児医療全国調査において、北海道で対象となった大施設48施設中昭和60年1年間に人工呼吸管理を6例以上おこなった施設21施設とした。

結 果

回答は18施設より得た。

回答を得た18施設の北海道内で占める位置の概要は下記の如くである。

- (1) 北海道の“NICU”bed 57 床中54床を占める。
- (2) 昭和60年の北海道の出生超未熟児 138人中 104人を収容した。
- (3) 北海道の大施設の新生児用人工呼吸器数92台中60台を占める。

又、昭和61年の北海道の出生数	63,947人
昭和61年の北海道の新生児死亡数	203人
昭和61年の北海道の乳児死亡数	352人

アンケート調査の結果を表1、2に示す。

表 1

(1) NICU及び病的新生児室入院数	2,690人
(2) NICU及び病的新生児室での死亡数	116人
(3) 90日以上入院した症例数	104名 (♂48、♀56)
(4) 入院時主病名	
超未熟児	53例
極小未熟児	30例
重症仮死児(1,500g以上)	3例
重症奇型児	9例
Down's synd.	3例
心奇型	2例
脳孔症	1例
水頭症	1例
小頭症	1例
多発性間接拘縮症	1例
その他	9例
floppy infant	2例
新生児けいれん	2例
SIDS (ニアミス)	1例
新生児肝炎	1例
未熟児+RDS	1例
化膿性髄膜炎	1例
未熟児	1例

表 2 90日の時点での入院理由並びに予後

1. 超未熟児 53例		予後	
体重増加待ち	35例	良好	41例
BPD		境界	2例
人工呼吸器管理	12例	不良	8例(死亡3例)
酸素投与	3例		
ROP	1例		
その他	2例		
2. 極小未熟児 30例		予後	
体重増加待ち	17例	良好	25例
BPD		境界	1例
人工呼吸器管理	3例	不良	4例(死亡1例)
酸素投与	4例		
ROP	2例		
その他	4例		
3. 重症仮死児及び重症奇型症候群	12例	予後	
人工呼吸器管理	5例	良好	2例
けいれん管理	3例	不良	10例(死亡5例)
心不全管理	3例		
その他	3例		
4. その他の疾患 9例		予後	
人工呼吸器管理	3例	良好	3例
けいれん管理	2例	不良	6例
BPD	1例		
その他	3例		

ま と め

(1) 90日以上入院管理を要した超未熟児、極小未熟児の予後は概ね良好であった。

(88例中良好例は 66例、 79.5%)

(2) 重症仮死、重症奇形症候群、その他の稀な疾患による長期入院管理の患児の予後は芳しくなかった。

(21例中良好例は 5例、 24%)

(3) 90日以上的人工呼吸管理施行例は23名であった。アンケート調査施設の人工呼吸器保有台数は60台であり、約40%を占めていた。

別におこなった北海道の主要施設における入院情報伝達に関するアンケート結果から、入院依頼を断わらざるを得なかった件数は、昭和61年で14件であり、そのうち、11件は長期の人工呼吸管理をおこなっていない施設であった。憂慮されたNICU bed占有の問題は現在のところ大きなsystem上の問題として顕在化していないようであった。(表3)

表3. 北海道 7地域の主要施設における新生児医療状況

	NICU	bed	resp. 台数	90日以上入院数	90日以上 resp. care	入院依頼断わる/入院依頼件数
道央 A	A	6	6	23人	2人	0/-
道央 B	B	5	4	13人	3人	2/ 63
道央 C	C	8	7	3人	0人	11/250
道南 D	D	4	4	11人	3人	0/-
道北 B	E	6	6	10人	4人	0/-
道東 A	F	3	3	9人	4人	1/ 50
道東 B	G	2	2	5人	0人	0/-
道北 A	H	2	2	5人	0人	0/-
道央 B	I	2	2	3人	1人	0/-

今後、予後不良が予測される疾患についてsystem上の問題として顕在化する前に、倫理的側面、後方 bedの受け入れ体制の精神的、経済的側面からのback up 体制の整備が必要と思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

(1)90 日以上入院管理を要した超未熟児、極小未熟児の予後は概ね良好であった。

(88 例中良好例は 66 例、79.5%)

(2)重症仮死、重症奇形症候群、その他の稀な疾患による長期入院管理の患児の予後は芳しくなかった。

(21 例中良好例は 5 例、24%)

(3)90 日以上的人工呼吸管理施行例は 23 名であった。アンケート調査施設的人工呼吸器保有台数は 60 台であり、約 40%を占めていた。

別におこなった北海道の主要施設における入院情報伝達に関するアンケート結果から、入院依頼を断わらざるを得なかった件数は、昭和 61 年で 14 件であり、そのうち、11 件は長期的人工呼吸管理をおこなっていない施設であった。憂慮された NICU bed 占有の問題は現在のところ大きな system 上の問題として顕在化していないようであった。(表 3)

今後、予後不良が予測される疾患について system 上の問題として顕在化する前に、倫理的側面、後方 bed の受け入れ体制の精神的、経済的側面からの back up 体制の整備が必要と思われた。